

（午後2時20分 再開）

○議長（石橋英和君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番5、6番 辻本君。

〔6番（辻本 勉君）登壇〕

○6番（辻本 勉君）それでは、議長のお許しをいただきましたので、一般質問を行います。

今回は、2点について行いたいと思います。まず1点目につきましては、次代の橋本市を担う子どもたちにとって大変大事な教育の問題、教育の基本的な問題といたしますか、すなわち学期制の問題についてであります。2点目につきましては、今、最も市民の関心が強い問題といたしますか、これからの新しい橋本市の進む方向を決めるといたしますか、また、市政の来年度からのかじ取りを決めるといたしますか、そのための来年3月実施予定の、市長選挙に関連してのものであります。

まず1点目の、小・中学校の二学期制を、もとの三学期制に戻す考えはないのかということで質問したいと思います。

二学期制と三学期制については、過去2回、2005年3月と2012年の3月に質問をさせていただいております。前回の2012年にも述べましたが、二学期制への移行については一時右肩上がりが増加いたしました。現場に目を落とすと、評価する声は年々減っており、中止する学校が続いております。

和歌山県内でも、和歌山市は市立中学校の二学期制をもとの三学期制に、わずか6年で戻しています。教職員全員と保護者の一部にアンケートを実施した結果、三学期制を肯定する意見が半数以上を占めたということであ

ります。本市においても、三学期制に戻してほしいという保護者の声が多く聞かれます。PTAを中心として署名運動を行うかなという動きもあると聞いております。

行政は住民の声に耳を傾けなければなりません。これが民主主義ではないのかなと。民主主義を守らない国政もあるんですけども、橋本市は住民の声に耳を傾けながら、適切な行政をやっつけていかななくてはならないと、このように考えております。特に、子どもにとっては、教職員や保護者の多くが望む方向に進むべきだと考えておりますので、いかが見直しをされるのですか、お答え願いたいと思います。

続きまして、2項目めです。約9年間にわたる木下市政の総括と、今後、平成26年度からの市政について、次期市長選について、木下市長の所見を尋ねます。

本市は、平成18年の市町合併という大変難しい時代のちょうど10カ月前ですか、平成17年の6月に木下市政が誕生いたしました。新しいまちづくりに9年間、木下市長のもと、私たち議員、職員とも一丸となって全力を挙げてまいりました。その結果、本当に当時とは大きくさま変わりしたのではないかなと私も思っております。

木下市政はその間、教育と福祉の充実及び企業誘致に積極的に取り組むことにより、将来に向けての基礎づくりがなされました。教育設備の充実、福祉行政の拠点となる保健福祉センターの建設、企業誘致、安全・安心のまちづくりのための種々の政策、京奈和自動車道側道整備、ルート371バイパスの整備、ごみの減量化等、挙げるときりがありません。木下市長自ら、どのように総括されているの

かをお尋ねいたします。また、これからの橋本市、橋本市政について、どのように考えておられるのか、これについてもお尋ねしたいと思います。

私は、平成15年に初当選させていただいて以来、木下市長は平成17年からということで、ほとんど一緒になって橋本市の行政に取り組んでまいりました。そんな中で、木下市長につきましては、常日頃から本当に橋本市民のため、橋本市政のためということで考えておられるということで、大変感銘をいたしております。いつ何どき話をさせていただいても、市政のことばかりです。市長、個人的に趣味はないのかなと思うぐらい、本当に仕事が趣味かなと思うぐらいに頑張っておられた姿を9年間見させていただきました。

前回も、4年前ですか、私は木下市政の5年間の総括についても質問いたしました。今回は若干状況が違うのかなど。前は、その後の市長選と申しますか、再出馬をされるというのが確定的でありましたので、それなりの総括に終わったわけでありまして、今回は9年間と長きにわたる総括をお願いした中で、新しい橋本市の進む方向を示唆いただけたらと、このように考えております。

まず1点目で、木下市政の9年間の総括をしていただきたい。特に、まだまだ橋本市としても課題がたくさんあるわけでありまして、市長が思われる、やり残したことについてはどのようなことなのか、お答え願いたいと思います。

続いて、ここが一番、今回のメインになるわけでありまして、今後、平成26年度4月以降の橋本市政について、来年3月実施予定の橋本市長選挙に出馬の意思はありなのかどうか。ご勇退されるのかどうか、その辺について、本日明確なお答えをいただきたいと思います。

以上、壇上での質問を終わります。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君の質問項目1、小・中学校における二学期制から三学期制への回帰に関する質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（松田良夫君）登壇〕

○教育長（松田良夫君）小・中学校の二学期制についてお答えします。

平成14年度から、学校週5日制が導入されるとともに、「ゆとり」の中で「生きる力」を育むための新しい教育課程が実施されました。基礎学力の確かな定着や総合的な学習の時間の実施、体験活動の推進等、学校教育が大きく転換する時期に、授業時間数を確保することに加え、指導と評価、学校行事等の見直し、教育環境整備等、長く続いてきた学校教育全体のシステムを見直すという視点で、橋本市では二学期制について検討をスタートさせました。

まず、平成14年度に、橋本市教育委員会から学校教育協議会に対し、「学校二学期制について」諮問し、「学校教育全体の見直しの観点から、二学期制の検討を進められたい。その場合、教職員や保護者・地域社会に十分説明し理解を得ることが大切である。」との答申を受け、先行研究を行うために、平成15年度に橋本市教育委員会から紀見北中学校に二学期制の研究指定を行いました。

平成17年度には調査研究委員会を組織し、紀見北中学校における2年間の研究の中で得られた成果と課題を小・中学校間で共有するとともに、実施に向け、各学校での具体的な計画に結び付けていきました。そして、文部科学省から研究指定を受けている学校を除き、平成18年度から橋本市立小・中学校において二学期制を導入しました。また、平成19年度からは、すべての小・中学校において実施し

ています。

このような経緯を経て実施している二学期制ですが、平成24年3月議会において、授業時数の確保ができること、時間的なゆとりを持って連続性のある学習活動ができること、長期休業の弾力的な運用を考えることにより、特色ある教育課程を編成できること、教職員が教育活動を見直すことで、学校の活性化を図れること等が考えられると、二学期制の良さについて答弁させていただいています。特に、7月と12月については、子どもたちが学習や部活動に向き合う時間を確保できるとともに、教員の子どもに向き合う時間の確保にもつながっています。また、長期休業を活用した特色ある教育活動についても広がってきています。

しかし、一方で、長期休業に入る前の評価や、二学期制についての保護者の理解を得るための取り組みについては、各学校としても課題となっているとの認識を持っています。三学期制に戻してほしいとの保護者の声があるとのことですが、導入の際にも協議の場を設定しながら取り組んできたように、具体的に何が課題となっているかについて声を聞かせていただき、学校とともにそれらの課題に対してどのように取り組んでいけるか、検討していきたいと考えています。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君、再質問ありますか。

6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）前回の2回につきましては、前向きな答弁をいただけなかったんですけども、今回は大変前向きな答弁をいただいたということで、大変ありがたく思っております。

そんな中で、県内見ますと、二学期制を導入しているのが伊都地方がほとんどなんです。和歌山県下、小学校でいきますと八十数%が

伊都地方ということで、この辺が、やはりちょっと問題のある点かなと。導入後、伊都地方、特に本市の子どもたちの学力の問題、生活の問題、この辺が三学期制当時よりもいいという、伸びておるという状況であれば、私は問題はないかなと思うんですけども、その辺のところをやはりきちっと押さえていかないと、伊都地方の子どもたち、ひいては本市の子どもたちが、いろんな面で和歌山県内でも差をつけられていっては、これは大変な問題になります。

そういうことで、今後、いろいろいい答弁いただいたので検討していただけたらと思うんですが、この導入後の学力と生徒指導について、十分な検証がなされておるのかどうか。二学期制導入についての当初の目的というのはいろいろあるわけで、先ほど教育長が述べられたとおりでと思うんですが、メリット・デメリットあります。そんな中で、導入後のその辺の状況というのを十分検証した中で、続けるなら続ける、もとに戻すなら戻すという形を私はとるべきだと思うんです。そんな中でいきますと、その辺の問題について一点だけ、ご答弁をいただきたいと思います。

○議長（石橋英和君）教育長。

○教育長（松田良夫君）二学期制につきましては、その検証については昨年度末も各小・中学校にお願いいたしました。その中で、精査した形で検証できたという結論は得ておりません。ただ、保護者の方から、二学期制が子どもの学力にどう結びついているのか、それがはっきり見えてこないとか、あるいは、もう一度、二学期制そのものの良さを伝える努力をすべきであるとか、そういうご意見をいただいております。

二学期制、三学期制におきまして、子どもたちのいわゆる授業時数、登校日数について、そう大きな差はございません。その中で、各

学校、いわゆる学力を高めるための取り組み、現状の子どもたちを見ながら、さまざまな形で工夫した取り組みを展開していただいています。これが二学期制によるものなのかどうか、そのあたりもしっかり精査する形で検証していき、二学期制のあり方をもう一度しっかり見つめ直すという、そういう必要な時期にきておるかという認識もありますので、ご指摘のとおり、二学期制については小・中学校の協力を得ながら、あるいは保護者のご意見も伺いながら検討していきたい、そのように考えてございます。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）ありがとうございます。

特に、現場の声を大事にしていただいたらありがたいなと思いますので、今後の検討といたしますか、それに期待したいと思いますので、よろしく願いしときます。これで一つ目は終わります。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、木下市政の総括と次期市長選挙に関する質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）それでは、辻本勉議会運営委員長よりご発言がございました、次期市長選に向けた取り組みの9年間の総括について、まず申し上げたいと思います。

私は、市民の皆さまの温かいご支援とご厚情を賜り、平成17年6月に旧橋本市の第14代目市長に就任し、平成18年3月1日の合併を経て、新橋本市初代市長として、約9年間にわたり市政の運営に努めてまいりました。

この約9年間、一貫して私が取り組んできた市政運営の基本姿勢は、市民の皆さまが安心して暮らせる「安心・安全なまちづくり」、そして、まちに活気を呼び込む「活力みなぎるまちづくり」、それから、歴史・文化遺産や

緑潤う田園都市を守る「緑のまちづくり」の3本柱とし、市の将来像である「時間ゆたかに流れ 暮らし潤う創造都市 橋本」の実現に向け、「このまちに住んで良かった」「このまちに住んでみたい」と思えるまちづくりに、市民の皆さまの力強いご支援・ご協力を賜りながら邁進してまいりました。

振り返りますと、旧橋本市最後の市長として、任期は9カ月間だけでしたが、就任早々、私の重要公約である企業誘致に取り組むべく商工支援室を設置し、自らトップセールスを行い、今日の企業誘致事業の基礎を築きました。

また、現在のコミュニティバスの前身となる市民病院循環バスの試行運行、さらに、ごみの減量化と花いっぱい運動の展開。このごみの減量問題で、皆さんには再三申し上げたんですが、ごみの焼却関係で7億円あまりかかっておると。そんなんで3割ほど節減しないかと。そうすることによって2割浮いてくるのではないかなと。それで1割は子育て支援に1割、1億円。1億円ですな。そして、高齢化の対策に1億円。都合2億円を使えるのではないかなということ、ごみの減量化をし、花いっぱい運動を、病院の周辺でも何ヘクターという菜の花、コスモスを植えたり、あるいは各家庭においてもプランターへ花を植えていただくと。それで橋本市を花だらけにすることによって、やはり他府県から橋本市を通るときには、このまちはどういうまちよと。花いっぱい美しいやないのと、こういうまちへ子や孫に住ましてあげたいなということ、住宅の宅地も用意もしておるもんですから、そういう狙いをつけてやってきたのが記憶にございます。

全国的に少子・高齢化が進み、国・地方の財政状況が厳しさを増す一方で、高度化・多様化する市民ニーズにこたえていくために、

平成18年3月1日、旧橋本市と旧高野口町の合併が行われました。私は、新橋本市の市長として、市民の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、合併による行政機能の一元化をはじめとした、さまざまな行政課題に取り組む決意を新たにいたしました。

また、平成19年度には、新市まちづくり計画の趣旨を尊重しながら、平成20年度から10年間のまちづくりの羅針盤として橋本市長期総合計画を策定し、市の将来像の意味を市民の皆さまと共有し、互いに手を携えながら、新しい橋本市の実現に向け、全力で取り組んでまいったところであります。

新橋本市が誕生してからは、「市民の力が活きるまちづくり」として、地域コミュニティの再生や市民活動を普及させるべく、高野口地区の活動拠点である高野口地区公民館を建設いたしました。このときも大分問題が多くて、公民館みたいなものを建ててもうても要らんというようなことの反対も、陳情も大分ありました。しかし、今や高野口の公民館はなくてはならない会館でして、もうパンクするような状況であるので、これの対策も今後考えていかなければならないと思っておるわけでありまして。橋本市協働の指針を策定して、公益的な市民活動や協働事業、市民活動団体の組織づくりを支援するとともに、保健福祉センター内に市民活動サポートセンターを開設し、市民協働を推し進めていく土台を築いたところでございます。

次に、「健やかで安心して暮らせるまちづくり」として、子育て環境を整備・充実させるため、幼保一元化計画を推進し、高野口こども園、すみだこども園を開園し、さらに平成27年4月には、橋本こども園、応其こども園をそれぞれ開園する運びとなり、加えて平成23年1月から小学生医療の無料化を実施いたしました。

高齢者・障がい者福祉を充実するため、介護予防の取り組みを積極的に支援するとともに、高齢者や障がい者の方に対してコミュニティバス利用料の無料化を行いました。また、橋本駅や林間田園都市駅にエレベーターを設置するなど、高齢者対策に対してバリアフリーを進めました。これは、国の補助、県の補助と市とで行ったわけでありまして。

保健・医療体制を確立するため、市民の健康増進と福祉の向上を図ることを目的に、平成25年1月、橋本市保健福祉センターを開設し、あわせて休日急患や保健と福祉に係る市の行政機能を集約いたしました。

また、橋本市民病院の経営健全化を図りつつ、地域の基幹病院として医療体制の充実に力を注いでまいりました。特に、医師の確保については大変苦労いたしまして、管理者、病院長、事務局長、私もお供して、大分そっちこっち医者確保に回った経験がございます。

生活の安全を確保するため、市北東部の住宅開発による人口増加や企業誘致による工場進出を踏まえ、消防・救急体制を充実させるべく、橋本北消防署を小峰台に開設いたしました。5年前でしたか、三石台の13階建てのマンションの8階が火災に遭いまして、私も飛んで行ったんですが、はしご車が来ないやないかと。この本庁におったために。そうしたらなかなかあの重たい車は50km、60kmで走れないようございまして、着いたところがもうほとんど8階のその部屋は丸焼けというようなことで、私も帰るに帰れず謝ってばかりおったわけでございます。それを契機に、何とか北の団地に高層ビルが乱立しておりますので、できれば北署にはしご車を、本署から向こうへ移すことが非常に効果があるんじゃないかという結論で、急いだ次第であります。

次に、「豊かな自然と共生する均衡あるまちづくり」として、循環型社会を形成するため、旧橋本市の時代から取り組んできた花いっぱい運動と生ごみの堆肥化等によるリサイクルを連動させ、市民協働でごみの減量化を図り、収集回数の削減につなげることができました。

また、広域ごみ処理場エコライフ紀北の建設に向け組合管理者として力を注ぎ、その結果として、旧市・旧町の既存焼却施設を解体することができました。これも大分問題がございまして、当時、姉齒事件というのはご存じでしょうか。それで、鉄筋、配筋とか、それは全部検査が要るわけで、設計したものが4カ月ほど遅れるということになってまいりまして、したがって完成も4カ月遅れるということで、隅田の地元から、その4カ月遅れる責任をとってもらわないかんというようなことで、あのときも私、月給を下げさせてもらう記憶がございしますが、そんなかい何の仕事をするにしても、やはり責任もついて回るといこと、これは痛感したところであります。

それから、道路・交通体系の整備と地域経済の安定した発展に向けて物流効率を高める京奈和自動車道、国道371号バイパスの整備促進に努めてまいったわけでございしますが、特に、国道371号橋本バイパスについては、早期開通に向けた足がかりとするため、平成19年と21年、23年の隔年に、国道371号バイパス建設促進決起大会を体育館等で開催したことを覚えています。市民を挙げて取り組んでまいりました。現在、和歌山県側がほぼ完成し、来年4月に開通予定ということをお聞きしておりますが、大阪府側を含む（仮称）新紀見トンネルについても、平成27年度に工事着手の目途がつき、大阪府側を含めた早期の開通に期待するところがございます。このことは、市民の皆が心配しておったわけでございまして、私ども、大阪府へ大分、3年も

4年の間も何回となしに陳情に行ったんですけども、なかなか合意に達してくれなくて困っておったんですけども、どうやら大阪府もやるということで、県知事のほうへやりますという報告が来たわけで、まあやれやれといったところでございます。

それに続いて、中心市街地土地区画整理事業にあわせた国道24号の拡幅、市道清水西畑幹線の整備とこれに続く紀の川左岸広域農道の建設促進をはじめ、現在、都市計画道路伏原田原線の建設を進めており、平成27年度内には完成する見込みであります。

また、平成18年2月に試行運行した市民病院循環バスをコミュニティバスに名称変更し、さらにバスルートの新設及び増車などを行い、現在4台を運行する予定で進めてございます。地域公共交通の強化に努めてまいったところであります。

生活環境の質を高めるため、公共下水道の整備と水洗化促進のための施策を展開し、また、上水道の安定供給を図りつつ、上水道事業経営の健全化に努めてまいりました。

安全なまちづくりを推進するため、災害時や緊急事態などに情報をより速く正確に市民の皆さんへ提供するため、4年前でしたか、デジタル防災行政無線の整備を行いました。また、災害時に自治体間での相互応援の体制を強化するため、全国ネットの20の自治体と市町村広域災害ネットワーク協定を結ぶ一方で、市内各地区に自主防災組織の立ち上げを促進し、結成率は現時点で約83%となっております。これもやはり近いうちに100%にしなければいけないと思っております。

次に、「活力ある産業を育成し若者が定住するまちづくり」として、就業と仕事づくりを促進するため、市長就任時より企業誘致に積極的に取り組み、紀北エコヒルズなどにおいて、現在まで優良企業25社を誘致し、誘致に

伴い橋本市民約170人の雇用を創出いたしました。

地場産業の育成においては、今年、伝統的工芸品に指定された紀州へら竿を全国に向けて情報発信し、また、パイル織物のブランド化の育成支援、農産物の販売促進などについても積極的に取り組んでまいりました。

観光・交流基盤を確立するため、橋本駅前に観光案内所を開設し、市内の観光情報の発信、地場産品の販売促進を図り、また、紀伊丹生川ダム建設中止に伴う地域の振興と観光客の誘致を目的に、平成24年3月、橋本市の奥座敷に「やどり温泉いやしの湯」を開業いたしました。

次に、「個性ある人と文化を育むまちづくり」として、豊かな心を育む学校教育を推進するため、こども園での3歳児からの短時間保育を実施、小学校については、1年生において30人を超える学級に非常勤講師の加配を行いました。また、すべての中学校において学校給食を実現するとともに、先日、国の重要文化財に指定された高野口小学校の改修、橋本小中一貫校の開設、あやの台小学校の開校、加えて、市内小・中学校の耐震補強についても平成24年度までに完了をさせたところであります。

生涯学習社会を形成するため、教育文化会館の耐震補強工事にあわせて図書館を増床するとともに、図書サービスの充実を図りました。

また、公民館を中心に、市民一人ひとりの生きがいづくりを支援するとともに、市民参画による協働のまちづくりを進めてまいりました。また、心の豊かさやゆとりを実感・体感できるよう、文化・芸術の支援を行い、世界的数学者であり橋本市名誉市民でもある岡潔博士の顕彰やおもしろ算数・数学教室の開催にも取り組みました。

旧橋本市の市長就任から約9年間の経過しましたが、時代の潮流と社会情勢の変化により、この間、橋本市の人口は3,000人以上減少し、また、国・県からの本格的な権限移譲により、地方主権へと大きく転換してきました。増大する業務に対して効率的な経営の視点に立った行政体制と財源を確保しながら、橋本市の将来像に向けたまちづくりを総合的・計画的に推進するために、橋本市行政改革大綱を策定し、集中改革プラン、これに続く行政改革推進計画に基づき、着実に成果を上げてまいりました。また、平成24年度には、懸案であった土地開発公社を解散し、将来にわたる財政負担を軽減することができました。

私は、この約9年間、議員各位はもとより、市民の皆さんの温かい励ましと支援を賜りながら、和歌山県北東部の玄関口として、また、紀の川中流域の中核都市としてふさわしいまちづくりに、全力で取り組んでまいりました。今日までの取り組みの一端を申し上げ、9年間の総括とさせていただきます。

次に、次期市長選挙への出馬についてでございます。出馬につきましては、8月頃から出馬要請というのを各区なり団体から、現在130通あまり来ておるわけでございます。このことにつきましても、本当に感謝いたしてございます。光陰矢のごとしと申しますが、まさしく私が市長に就任以来、今日までの9年間、一日一日を全身全霊を打ち込んで取り組んでまいったわけでございますが、先ほどから申し上げましたように、皆さまの協力を得ながら、市民にお約束させていただきましたことについての、だいたい80%ぐらいが私なりに完成したものと見ておるわけでございます。三期目の市長選挙ということになってくるわけでございますが、やはり時代も大きく変わってまいります。したがって、私も体力的に限界も来ておりますので、次期の市

長選挙については、若い方に引き継ぐべきだと考えておるわけでございますので、来年の4月1日が任期であるわけでございますが、それまでは、やはり現職の市長として、十分皆さんのご指導をいただきながら努めてまいりたいと思っておりますが、やはり来春の市長選挙については、辞退をさせていただきたい、そういう考えを持っておりますので、本日、議会でこのことを皆さんに申し上げさせていただいて、ひとつ今後の市政の方向を皆さんでよくお考えをいただき、お決めただけたらと思うわけでございます。

そんなことございまして、あと4カ月ほどですか、この任期中につきましては、私は全身全霊を打ち込んで取り組んでまいりたいと考えてございますので、今後ともよろしくご指導をお願い申し上げ、私のあいさつとします。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君、再質問ありますか。

6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）今、市長のほうから改めていろんな話、総括を聞かせていただいたんですけども、本当に合併という大きな波の中で、合併特例債というものがあつたにもかかわらず、本当にいろんなことをやっていた

だいたんかなと。本当に、私も自分なりにこの質問をするときに、いろいろ市長がやっていただいたことを思い浮かべておったんですけども、それ以上にお聞かせいただいて、すごいことをやっていただいたなということで、大変感謝を申し上げたいと思います。

最後に一つお願いといたしますか、まだ残された課題といたしますか、大きな問題が若干残っているように思います。市長も20%ぐらいやり切っていないかなということだったんですけども、駅前開発の問題とか、企業誘致、山内、平野の問題、恋野の土地利用の問題、若干いろんな問題が残されております。これにつきましては、新しい市長にきちっと引き継ぎをしていただいて、進めてもらえればいいかなということに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

市長、今言われたとおり、まだ4カ月ばかり任期があるわけでありまして、本当に9年間ご苦労さまでした。

終わります。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君の一般質問は終わりました。

この際、午後3時15分まで休憩いたします。

（午後3時1分 休憩）